

令和4年度 岩手県立山田高等学校経営計画

校長： 晴 山 俊

1 現状把握及び将来展望	(1) 学校に対するニーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかる授業による学力の向上</li> <li>・希望進路の実現</li> <li>・部活動の充実</li> <li>・楽しい学校行事</li> <li>・良好な人間関係と学校生活の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全安心で落ち着いた学校生活</li> <li>・生活習慣改善と基礎学力向上による希望進路の実現</li> <li>・各種の情報提供</li> <li>・私費負担の軽減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内小中学生が魅力を感じる学校</li> <li>・生徒会活動・部活動・探究活動等での地域連携と地域創生</li> <li>・ボランティア活動等の地域貢献</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人に寄り添う教育実践</li> <li>・地域復興・発展に寄与する人材育成</li> <li>・確かな学力を備え広く社会で活躍する人材育成</li> </ul>
	(2) パートナーとの関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びに向かう姿勢と人間性の涵養</li> <li>・自己肯定感や規範意識の育成</li> <li>・諸活動への主体的参加の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相互の信頼関係の強化及び連携</li> <li>・教育活動に関する双方向の情報共有</li> <li>・学校行事への積極的な参加と協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動を通じた交流</li> <li>・復興教育における地域連携と交流</li> <li>・活動発信による地域活性化への寄与</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中高との連携協力の推進</li> <li>・県内外の高校や社会人との交流推進</li> <li>・企業や大学との連携協力の推進</li> </ul>
	(3) 学校に影響を与える変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震や台風等の自然災害及び新型コロナウイルス感染症</li> <li>・東日本大震災からの復興及び地域の活性化</li> <li>・地域の児童生徒数の減少</li> <li>・山田町及び地域社会との連携の在り方</li> </ul>			
2 校訓・教育目標	「身体を鍛え、勉学に勤しみ、真理を究め、叡智を磨き、豊かな心を養え」を校訓として、知・徳・体の調和を図り、誠実、自主、創造の気概に満ちた生徒の育成を目指す。				
3 目指す学校像	(1) 今年度の重点目標	重点目標		達成指標	
		ア 授業をはじめとする学習活動の充実により、確かな学力の育成を図る		・学校評価(生徒)「授業がわかる」【80%以上】	
		イ 保護者や地域と一体になった魅力ある学校作り推進		・学評(保)「子どもを入学させ正解」【85%以上】	
		ウ 自ら考え、表現し、適切な判断に基づいて行動する力の養成		・学評(生)「高校の学習が将来有益」【80%以上】	
		エ キャリア教育の推進と希望進路の達成		・学評(生)「進路指導が充実」【80%以上】	
	オ 学校いじめ対策組織の取組を中核としたいじめ防止		・学評(生)「学校生活が充実」【80%以上】		
(2) 取組方針	ア 授業をはじめとする学習活動の充実により、確かな学力の育成を図る				
	(ア) ICTの積極的活用を進め、学び直しに取り組むとともに主体的・対話的で深い学びによる授業実践に取り組む。また、課題等の内容を工夫することにより家庭学習の習慣化を図る。 (イ) 授業のユニバーサルデザイン化を継続するとともに、各種研修への参加や互見授業・授業評価を通して授業改善を図るなど、教職員のスキルアップを図る。				
	イ 保護者や地域と一体になった魅力ある学校づくりの推進				
	(ア) 町内小中学校と互見授業・模擬授業・児童生徒交流・職員交流等により連携を図る。 (イ) PTA・同窓会・保護者・自治体と学校経営計画を共有し目標達成に努める。(学校運営協議会の発足)				
	ウ 自ら考え、表現し、適切な判断に基づいて行動する力の養成				
(ア) 学校生活全般及びあらゆる活動を通じて、責任感・連帯感・人間性を涵養するとともに、地域の復興を担う使命の自覚を促す。(復興教育スクール、探究共創事業) (イ) 学校行事・生徒会行事、他校交流(交流学習スクール)への主体的参加を通じて多様な考え方に気づくとともに、協働性を培い、地域創生に取り組む基盤を養成する。					
エ キャリア教育の推進と希望進路の達成					
(ア) 面談等で生徒理解に努め、個別指導等により多様な進路希望に対応する。 (イ) インターンシップ・ガイダンス・講演会(復興担い手育成支援)等を通して自らの将来の可能性について考えさせ、幅広い職業理解を促し、より高い意識から選択できるよう支援する。 (ウ) 「総合的な探究の時間」の充実に向け町内各組織との連携を図る。(探究共創事業の活用)					
オ 生徒の「居場所づくり」と「絆づくり」の推進(未然防止)					
(ア) 授業や学校行事等を通して、自他の生命や人権を尊重し、多様性を認め合う豊かな心の育成を図る。 (イ) 保健指導・教育相談体制の充実とともに、関係機関との連携を図り、いじめ未然防止・早期発見に努める。また、いじめ事案が発生した場合は組織として直ちに適切な初期対応に当たる。 (ウ) あらゆる場面での成功体験や承認の経験を通じて、自己肯定感が高まるよう努める。					

※その他の評価指標

- ・2年基礎力確認調査正答率【40%以上】
- ・学校評価(保)「家庭への情報提供が円滑」【80%以上】
- ・学校評価(生)「生徒会活動が活発で成果あり」【80%以上】
- ・2年意識調査「自己肯定感」【60%以上】